

地図太郎 Lite 活用事例報告

長野県松本県ヶ丘高校 古林阿沙子

1. 実施日 令和3年4月22日
2. 対象生徒 2学年 地理B
3. 単元 第1章 地理情報と地図 第3節 地理情報の地図化
4. 授業の概要

生徒が地図太郎 Lite を使うのは、この授業が2時間目である。前回は、基本的な操作の確認と統計地図の作成を行った。

今回は、「令和元年東日本台風」を題材として、地図太郎 Lite を用いてレポート作成を行った。学習テーマ「57 風水害と洪水(長野県)」を中心に、必要な情報を重ねて、被害の状況を把握し、ハザードマップと比較しながら、災害から身を守るためにどのような行動が必要かレポートにまとめた。レポートの作成にはロイロノートを用いた。

5. 授業者より

地図太郎 Lite は直感的な操作で地図を作成することができるため、生徒はすぐに操作を習得した。1時間目には、地図や統計資料を使って、地図表現による印象の違いを体感した。2時間目(本時)は、テーマに沿って、必要な情報を取捨選択しながら地図を作成した。2人1組で1台の iPad を使うことで、共同作業をとおして生まれる学びがあった。また、地図太郎 Lite で作成した地図をロイロノートのシートに貼り付けることで、限られた時間のなかで学習の成果をまとめることができた。



授業の様子

6. 生徒の作成したレポートの例

生徒 1

STEP1

長野盆地の地形が低くなっているところと、川のカーブの外側の方が被害が大きくなっている。



STEP2

小布施PAのあたりは想定浸水深さよりも深くなっていた。他の地域はほぼ想定浸水深さ通りだった。

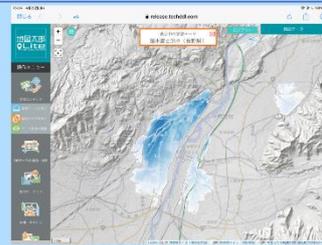


STEP3

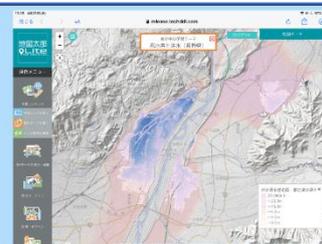
長野市は千曲川の中流に位置し、長野市周辺があまり降水量が多くなかったにもかかわらず浸水の被害が大きかったのは上流で雨が多く降りそれが流れてきたからだと考える。

このことから、台風がきて自分のいる周辺があまり雨が降っていなかったとしても上流から流れてきて川の水量が多くなることもあるので、川の方へ近寄りせず避難するようにしたい。

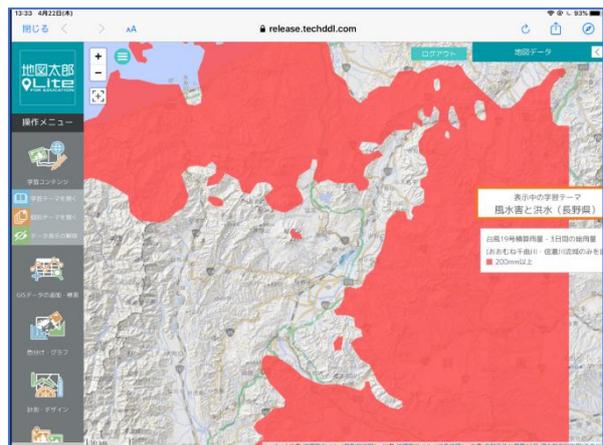
生徒 2



低地では水が溜まり被害を受けている



実際の浸水は想定図よりも広がっていないことが分かる。



千曲市は千曲川の中流に位置し、小布施や中野周辺の積算雨量が多いことが分かる。長野市の雨量は多くなかったが、上流で降った雨が下流に向かって流れ込んだ影響で大きな被害を受けたことが分かった。自分がいる地域で降雨量がそれほど多くなくても、付近の川の上流での降雨量が多ければ被害を受ける可能性が高いので警戒が必要である。